



塩水プールで治療訓練する患者たち

さっそく訓練始める

水俣のリハビリ・センター

喜びの塩水プール開き

水俣市西湯の兎に完成したりハ
ビリテーションセンター市立病院
付属湯の兎病院の塩水プール開き

は、六日午後一時半から福田船本
YMCA理事、専長(代理)白石松橋
療護園長ら来賓、身体の不自由な
市内、葦北郡内の子どもたちもY
MCA子羊会、松橋療護園の兎重
らを迎え、地元関係者など約三百
人が出席して開かれた。

大橋病院長、橋本市長のあいさ
つ、来賓祝辞のあと入院患者を代
表して出田エツさん(女)が車イス
に乗ったままで「天草洋」の詩を
吟詠した。ついでテープにハサミ
を入れる代わりに水着姿になった
市長と病院長が「祝プール開き」
と紙に書かれた丸い輪を泳ぎなが

ら破るといふ新しい趣向の初泳ぎ
があった。

このあと鬼木院長の説明で同病
院に入院中の水俣病、ポリオ、脳
卒中、骨折などの患者たちが療法
士の指導を受けながらプール内で
訓練を受ける実演があり、引き続
き子羊会、療護園児たちがプール
に飛び込み泳ぎ回ったが、不自
由なからだて社会復帰のために懸命
に努力する患者たちに拍手がおく
られた。

同プールは長さ十六メートル、幅十メ
ートル、中央でおとなと子ども用に分けら
れ、おとな用は深さ一・二メートル、子
ども用は〇・七メートル、天井からロー
プ、つり輪などがさげられ患者は
このロープにつかまって泳ぐ。塩

水と温泉をまぜて温度を調節、年
間を通じて泳げるようになっている。
淡水よりも浮力が強いので大
気中では動きにくいマヒした手足
も、わりあい楽に動かせるので泳
ぐことによって機能を回復させる
のがねらいで、訓練治療用として
は全国でも初めての施設である。